

我がふるさと

小島公民館長 小平弘正

たった百五十戸の純農村地帯、誇れるこれと言った民話も無ければ、何にもなし、その中で唯一誇れるもの、それは、とうとうと流れる『利根川の美観』。

自宅から百メートル程の小高い堤防に駆け上がると、それはそれは別世界。早春の朝霧と遭遇すると、まるで松島の様、あちこち点在する小さな島が幻想的で、いつまでも晴れないで・・・と願う。

また、私が一番好きな情景は、真夏の灼熱の太陽が精一杯照りつくし、やがて疲れはて燃えつくす夕刻、遠く連なる西の秩父連山に身を沈め様とする時、川面に映る夕日がせせらぎを赤く染め、それはそれは言いつくしがたい感動とも母の慈愛にも似たおだやかな風景に心洗われる。

そして背を見ると雄大な群馬三山がそびえ、まるで大きな裏庭。そこに生まれ育った小島の人々は、心豊かで情に厚いと聞く。



(熊谷市公連だより 第3号 平成19年より)